

# 「地域組織」の協力について(お願い)

## 1. 第六次研究中期計画の概要

第六次研究中期計画では、「研究活動を行う目的は何だろうか」ということから考え始めて、学校事務職員として『成長』するためだと考えました。

『成長』とは、『自分自身を理解し、学校事務職員という職の理解を深めること。そして、それが身近な誰かのため、島根の教育のために役立つようになること』と捉えます。

そして、『成長』するためには、『今の自分にできる実践』が必要になります。

よって、まず『基礎研究』として、会員一人ひとりが研究活動を行う期間を設けています。

また、どんなことを研究したいかということ(研究主題)と、実践の結果は普段の業務・仕事と強く結びついていてこそ、その効果は大きなものになると考えます。

そこで、普段の業務と研究を結びつきやすくするために、島根県教育委員会が策定している「教職員の評価システム」の一部である「資質能力向上支援システム」と関連づけて、研究を行います。

島根県に勤務する学校事務職員が考える「事務をつかさどる」の具体的な内容を、会員一人ひとりが実践をとおして見つけることで、学校事務職員としての成長を目指していきましょう。

## 2. 具体的なスケジュール

別紙「研究中期計画」ファイルの9ページ内【1年間の流れ】をご確認ください。

## 3. 「地域組織」にお願いしたいこと

『島事研ビジョン 2020』の中に「ストラテジー2020」設定の理由と記載されている部分があります。その一部を抜きだした部分が、次の内容です。

社会人の学びに関して「70 : 20 : 10」という数値があります。

- ・ 自分の実際の経験から学ぶ = 70%
- ・ 他者の観察やアドバイスから学ぶ = 20%
- ・ 本を読んだり、研修を受けたりすることから学ぶ = 10%

出所 : Lombardo&Eichinger

これら3つが効果的に作用しあうことで、初めて成長につながると考えられます。

島事研は「研究活動・発表(研究中期計画に基づいた研究活動等) = 70%」

「周囲からの刺激(会員同士のアドバイスや情報部の情報収集・発信等) = 20%」

「講演等の研修(研修部を中心とした研究大会・セミナーの実施等) = 10%」

これらを掛け合わせて、「研究の推進=チャレンジ」を行うことで、ゴールの達成をめざし、会員一人ひとりが成長を実感できる組織になるとよいと考えます。

「実践し、先輩や周囲の方からアドバイスをもらい、さらに自分で学ぶ」ことで、めざす姿に近づいていきましょう。

とあります。普段の研究活動の中でも、このことを意識した取組を行いたいと考えます。

「自分の実際の経験から学ぶ」とは「『基礎研究』として、普段の業務・仕事と強く結びついた、今の自分にできる研究実践を行う」と考えます。

では、「他者の観察やアドバイスから学ぶ」をどう行うか考えた時に、まずは、お互いのことを知っていて、勤務する学校の地域性も知っている学校事務職員どうして、自分が取り組む研究実践の内容について、意見交換をしたり、アドバイスをしたりできる環境があるとよいのではないかと考えました。

そこで、各地域にある研究組織を主に、業務改善を意識した取組については事務グループでも意見交換等が可能ではないだろうかと考え、協力をお願いしたいと考えました。

各地域の研究組織、ましてや事務グループは、島事研と直接のつながりがあるわけではないため、あくまで実施協力をお願いになりますが、年間3回程度、意見交換の時間をとっていただければ、より会員一人ひとりにとって効果的な研究活動が行える体制が整えられると考えていますので、ぜひともご協力をお願いいたします。

「地域組織」で行っていただきたい具体的な内容については、「研究中期計画」ファイルの18~20ページでご確認ください。